

<単元目標>

- ・身の回りの生活や人々に関心を持ち、生活環境を多様な視点からとらえることで住みよいまちにするための課題を見つけることができる。
- ・調べ学習や様々な人との交流や体験学習を通して分かったことを分類・整理しながら、よりよい環境の実現に向けて課題を明らかにし、課題解決のために行動することができる。

<児童の実態>

4月から「みんなにやさしいまち」というテーマで総合的な学習を続けてきた。「みんな」の中には様々な人たちが含まれていることへの理解を深めた。ゲストティーチャーの講話や体験学習を通して、障害のある方の困難さについても考えを深めた。本やインターネットを使い、バリアフリーやユニバーサルデザインの調べ学習もすすめた。しかし、それらが「やさしい」ものだとイメージできていても、具体的にどのように「やさしい」のか自分の言葉で表現するだけの理解が不十分である。

また、タブレットを使って、意思表示や意見交換をする機会はあるが、自分の考えを論理的に展開させて表現・整理をした経験があまりない。

本単元では、これまでの学習内容の点と点が1つの線のようにつながるように、相互に関連し合うことをタブレット（ロイロノート）の整理を通して意識させていきたい。

<単元観>

①単元の概要

本単元では、「みんなにやさしいまち」をテーマに、障害のある方との交流や調べ学習などを通して、自他の生活や行動に思いやりをもち、社会の一員として自分にできることを考え、行動する資質・能力の育成を目指す。また、子供報告会で3年生に対して西田のまちが「みんなにやさしいまち」であることをまとめ、発表することを通して、他者へ伝える必要感をもたせる。

②本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・友達にアドバイスや感想を求めたり、応えたりすることですすんで関わろうとする力
【他者と協力する力・コミュニケーションを行う力】
- ・福祉や「やさしいまち」について様々な角度から物事を考える力
【多面的、総合的に考える力】

<情報活用能力の育成について>

○第4学年が年間を通して重点とする能力

- ・自分の知りたい情報を本やインターネットから探し出すことができる。（検索の仕方）
- ・手に入れた情報を活かして考えたり、伝えたりすることができる。（情報の活用）

○本時で重視する能力

- ・物事を筋道立てて考え、その思考を表現することができる。
- ・アドバイスや感想を伝えたり、応えたりすることですすんで他者と関わろうとすることができる。

○本時で活用する技能

- ・効率よく作業をすすめられるようショートカットキーを活用することができる。
【 画像のコピー、ペースト、画面の切り替え 】

<誰一人取り残さないための工夫>

○学習形態の工夫

- ・主となるカード作成にある程度の型を設け、活動を個人→小グループ→個人→全体共有→個人とすることで、見通しをもって活動に参加することができる。

○資料の精選

- ・西田のまちにあるバリアフリー・ユニバーサルデザインのことを写真素材にすることで、資料を身近に感じ、意欲的に活動に参加することができる。

○ICTの活用

- ・ロイロノートの共有ノートを使うことで、リアルタイムでの情報共有を容易にし、活動の取り組み方や進捗状況などを可視化することで、活動の見通しをもたせ、安心感をもって取り組むことができる。

身近な地域に対する行動

他教科との関連

課題設定

(体験・気付く)

「みんなにやさしいまち」とは何だろう。

「やさしいまち」とは何だろう。

④「やさしいまち」のイメージを描き、ワークシートにまとめる。

「みんな」とはだれのことだろう。

②「みんな」に含まれる人について考えたり、それらの生活における問題点や工夫について話し合ったりする。

学習課題・学習計画を立てよう。

③「やさしいまち」にするために、追及すべき問いを見出し、学習課題・学習計画を立てる。

多様性

国語「聞き取りメモのくふう」

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手の伝えたいことの内容を捉える。

社会「水はどこから」

飲料水などを供給する事業が果たす役割を考え、地域の人々の健康な生活の維持と工場に役立っていることを理解する。

ステージ1

(体験・気付く)

障がいがある方や高齢者の方などの生活について調べたり、お話を聞いたりしよう。

「みんなにやさしいまち」の工夫を本で調べよう。

④工夫としてどんなものがどこにあるのか、それらのものがどんな人にどのようにやさしいのか本で調べる。

耳が不自由な方のお話を聞こう。

②聴覚障がい者との交流を通して、聴覚障がい者の生活や思いを知る。

【協力：聴覚障害者協会 猪股 恵さん】

目が不自由な方の体験をしてみよう。

③視覚障がい者体験を通して、視覚障がい者の生活について考える。

目が不自由な方のお話を聞こう。

④視覚障がい者との交流を通して、視覚障がい者の生活や思いを知る。

【協力：SDDソリューションズ

佐藤 尋宣さん】

点字について知ろう。

⑤点字の作られ方を知り、実際に点字を打つ。

理科「雨水のゆくえ」

雨水の行方と地面の様子、自然界の水の様子について理解する。

国語「あなたなら、どう言う」

お互いに納得する言い方を考える。自分とは違う立場になって考える。

社会「水害からくらしをまもる」

地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことを知る。

ステージ2

(考える・行動する)

自分たちにできることを考え、行動しよう。

荻窪のまちの工夫を見付けよう。

①荻窪駅や学区周辺には、どこに、どのような工夫があるか地図を確認する。地図に付箋を貼り、整理する。

②荻窪公園の「みんなにやさしい」工夫を見付ける。【校外学習】

③荻窪駅など他の場所での工夫も見付ける。(コロナ感染拡大防止のため校外学習はなし。学年担任が写真撮影実施)

これまでの学習を整理しよう。

④「バリアフリー・ユニバーサルデザイン」があることで、どのようにして「やさしい結果」に結びつけるのか考える。

<本時>

つくろう「やさしい西田のまち」

⑤西田のまちの課題を探し、挙げる。

⑥自分たちにできることを決め、行動の計画を立てる。

⑦グループごとに自分たちのできごとに取り組み。

情報の整理・分析

社会「とどけよう命の水」

先人の働きと現代の様子を関連付け、地域社会の発展について考える。

理科「わたしたちの体の運動」

人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによることを理解する。

国語「世界に誇る和紙」

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。

ステージ3

(まとめる)

「みんなにやさしいまち」について学習してきたことをもとに、自分たちの考えや思いを発信しよう。

発表の準備をしよう

①これまでの学習を振り返り、発表する内容をまとめ、発表の仕方を考える。

②発表したい内容・方法について不足している情報などを収集する。

③発表内容をまとめ、表現する。

発表しよう。

④ESD子供報告会で発表する。

3年生に向けて、「西田のまちがみんなにやさしいまち」であることを発表する。

1年間の取組を振り返ろう。

⑤これまでの学習の成果と課題を考え、次年度に繋げる。

批判的に考える力

国語「もしものときにそなえよう」

相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。

社会「世界とつながる大田区」

地域の外国人と共に生活していくために自分たちができることを考えようとする態度を養う。

本時の授業デザイン

本時の目標

「バリアフリー・ユニバーサルデザイン等」があることで、
どのようにして「やさしい結果」に結びつくのか考えよう。

評価規準

- 思・判・表：バリアフリーやユニバーサルデザインなどの効果について考えを深めることができる。
- 態・人間性：互いに感想やアドバイスを送り合うことで、自他のよさを認めることができる。

①情報活用能力の育成の視点

○物事を筋道立てて考え、その思考を表現するためのツールとしてロイロノート（共有ノート）を活用することで、発想を広げることや、自分の考えを再認識することができたか。

- ・カードを作成しながら、思考を整理したり、考えを広げたりすること。
- ・自分の考えを班の友達やクラス全体と共有し、伝えること。
- ・友達のカードに感想を書いたり、友達からの感想を読んだりすること。

②ESDにおける価値観育成の視点

○「困っていること」やその「解消理由」を考えることで、「やさしさ」について考えを深めることができる。

- ・困り感を抱える人や場所や場面、困り感を解消しようとするユニバーサルデザインなどを、様々な視点から考えることができる。

例) ・ 駅を利用するためにすること、課題となりそうなこと
・ 足の不自由な人が困ること、困る状態
・ 足の不自由な人の困難が解消される工夫とは
・ 優先席は足の不自由な人だけでなく障害のある人、妊婦、高齢者など
・ 優先席があることで座ることができる→電車に乗って移動できる 等

○他者とのコミュニケーションを通して、「やさしさ」について考えることができたか・互いによさを伝えることができたか。

- ・友達のカードに対して感想やアドバイスを伝えることでよさを認めること。

学習の流れ

①
導入

- 前時の振り返り
- 本時の学習課題を確かめる。

「バリアフリー・ユニバーサルデザイン等」があることで、
どのようにして「やさしい結果」に結びつくのか考えよう。

②
展開

- ロイロノート（共有ノート）のカードを全体で確認する。



- バリアフリー・ユニバーサルデザイン等の「写真」を中心にして、それが「誰のため」にあるのか、「困っていることの具体例」、「それらが解消される理由」を考え、文字や画像ファイルを挿入したカードで繋げる。

（カードをつくり始める順番は問わない）

- 「解消される理由」から、どのような「やさしい結果」が生まれるのか想像し、文章を入力したカードを結び付ける。
- 制作段階で一時的に、全体で考えを共有する。

- 制作した考えを班の中で発表し、感想やアドバイスを口頭で伝える。

- 全体で制作した考えを閲覧し、共有する。
- 友達の考えに対して感想や意見を入力したカードを送り合う。
隣の班→フリー

③
終末

- 今日の学習を振り返る。
これまでの学習も踏まえ、今日の学習での気づきや考えたことをまとめる。

<p>駅 ＜場所＞</p>	<p>利用者がたくさんいる・どのような人も使いやすい、困ることのないよう 音声案内、エレベーター、ホームドア、行き先表示、改札広い、点字ブロックなど</p>
<p>優先席 ＜対象＞</p>	<p>足が不自由な人だけでなく、障害のある人、妊婦、高齢者、子供連れ、体調の悪い人 のためにも</p>
<p>駅を利用する人 ＜行動面＞</p>	<p>電車に乗って移動するために、時間を確認し、駅まで向かい、切符（Suica）で 改札を通り、ホームに向かい、行き先に向かう電車に乗る。</p>
<p>足の不自由な人 ＜困難さ＞</p>	<p>ずっと立っていることや歩くこと、足を上げること下ろすことなどに困難がある</p>
<p>足の不自由な人 ＜便利さ＞</p>	<p>段差や階段があると困る、杖や車いすを使うこともある エレベーターやエスカレーターがあると階段より楽に移動できる</p>
<p>優先席 ＜発展的な考え＞ やさしい結果</p>	<p>電車内が込み合っても譲ってもらえることで、困っている人が座ることができる。 ➡電車にのって移動することができる</p>

例

